

誰も教えてくれないカーネーションの楽しみ方

(有) 矢祭園芸 金澤美浩

園芸研究家 佐藤和規

1. 光の大切さ

カーネーションにとって光は大切なもの。これが十分に当たらないと蕾を咲かせるどころか、新しい花卉を作ることができなくなってしまう。室内にだけ置かず、光が十分に当たる場所に午前中だけでも出してあげましょう。

2. 肥料は大切

意外に選定をおろそかにしがちの肥料。花を咲かせたり、茎を増やしたりするために非常に大切なものです。液肥の場合は、「ハイポネックスの原液」を 2000 倍に薄めたものを水代わりに与えると良いでしょう。それよりもっと良い肥料が、「ハイポネックスの微粉」タイプ。粉状の肥料で水に溶けにくいミネラル分が多く含まれているため液体化ができなかった肥料です。使い方は簡単で、水 1 リットル当たり 1 グラムを溶かして液肥のように利用するだけ。カリとミネラル分が多く含まれているので茎が丈夫に育ち、美しい花を咲かせます。

3. 植え替えをしてみよう

カーネーションを植え替えて楽しむなんて、ほとんどの人が知らない裏技です。これをするとしないとでは雲泥の差。鉢からカーネーションを抜いてみて気がつくのは『根っこの多さ』。つまり成熟した状態になっています。それを水だけで育てると通称『根詰まり』のような状態になり、咲く花も咲かなくなってしまう。手元に届いた時になっていなくても、遅かれ早かれそのようになってしまう。

植え替えの方法は、鉢の縁を数か所たたいて根を抜いた後、新しく足す土に馴染むよう鉢の底に面していた根っこを少し崩して、深植えはせず、今の土の面が露出するように一回り大きな鉢に植えます。

土は水はけのよい粒子の粗い市販の培養土を使い、欲を言えばマグアンプ K を 1 リットルにつき 3 グラム混ぜると良いです。植え替え後は十分な水を与えます。

根詰まりをしていない状態でしたら、そのまま根っこを崩さずそっと植え替えてください。

4. 駄目もとでピンチ（摘芯や剪定）

もらったカーネーションをピンチする。それほど勇気のいる行動はありません。むしろ誰もやろうとも思いません。植物は育てて楽しむもの、それにピンチはつきものです。

タイミングは最初の花が一通り咲き終わる5月下旬～6月上旬。強気の強剪定と弱気の弱剪定とあり、前者は地上部3～4cm位で株元から2節位残して切る。後者は地上部から5cm位で株元から3～4節位残して切る。ピンチ後は新芽が少し出てくるまで4～5日間隔に土が乾いたら水を与えるということを繰り返します。葉っぱが少ないときに土を加湿にってしまうと水の出口が無くなって、大事な株が亡くなってしまいます。ピンチ後は梅雨の雨で濡れない明るい軒下の等で管理します。

新芽の伸長にも肥料が必要なのですが、植え替えてあってマグアンプKが使われていればOKで、使われていなければ錠剤の肥料「プロミック」を一株当たり2錠、30日～40日に1回与えてください。ただ、植え替え直後で根が十分に育っていない状態である場合は、肥料は根が十分に伸びる1ヶ月後に与えるようにしましょう。また、夏場は肥料が溶ける速度が速く、根を傷めやすいので与えすぎないように気をつけましょう。大凡最低気温が20℃以下位になる季節に秋の蕾をつけてくれるでしょう。

5. 意外と簡単な夏越し

ピンチしていない株、している株ともに、カーネーションの管理は日向でも良いのですが、鉢土の温度が高くなり過ぎないように風通しの良い場所で管理しましょう。水を控えめにすることで昼の高温にも耐え丈夫な株になります。

最後に

今まで諦めていた人も勇気を出して『植え替え』『ピンチ』をしてみてください。また、一歩進んでプランターに植えこんでみたり、庭に植えてみたり、カーネーションの新しい楽しみ方にチャレンジしてもらえたいことを願っています。